

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。

学習活動名	防災教育(ニューノーマル時代に避難所で活躍するロボット「Sota」を考える)
学年	小学校第5学年
目標	防災教育の一環として、避難所に避難してくる区民の方へ、どういう情報を提供すると有効か、人を助けるコミュニケーションロボット「Sota」を考える
教材タイプ	コミュニケーションロボット
使用教材	コミュニケーションロボット「Sota」, Sota と始めるプログラミング教育
環境	児童3-5人で1台の端末と1台のコミュニケーションロボット「Sota」を使用
都道府県	東京都
実施校	荒川区立第三日暮里小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	科目：総合学習「防災教育」 狙い：避難所拠点に指定されている当小学校が避難所として使われた際に、役立つロボットを考え、動作させることで防災の意識を高める 【事前学習】 ①災害発生時に自分達の小学校が避難所となったことを想定 ②「居住スペース」、「生活用品支給」等、避難所に必要なものの洗い出し ③コロナ禍において、人の対面機会を減らすロボットは有効な手段 ④ロボットが何を案内すると区民の方へ役立つかをグループ学習 【本時】 ①「居住スペース」等、避難所に必要なものの毎にグループに別れ、双方向の会話をブロックプログラミングでプログラムを組み上げ、ロボット「Sota」に案内をさせる ②各グループで組み上げた案内ロボット Sota を発表する  
成果と課題	児童がロボットを動かすために食い入るようにプログラミング学習に取り組むと共にどうしたら、より良くなるか活発なグループディスカッションが見られ、防災学習を印象付けるのに有効な手段であった。